

---

# 僕とボク

基地外

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

僕とボク

### 【Nコード】

N4611A

### 【作者名】

基地外

### 【あらすじ】

普段の『僕』と、変な『ボク』との会話です。少々ヲタ的な要素を含みます。

ボク

「はにゃあゝん」

僕

「うわ!!びつくりした…だ、誰？」

ボク

「ボクは、ボクですにゃ!!」

僕

「え？ボク、ボ…だ、いや…え、誰…？」

ん？あれ？っていうか、どこにいるの…？声しか聞こえない…」

ボク

「ボクは、君<sup>ヲタ</sup>の妄想から生まれた、別人格ですにゃ!!」

僕

「ちょっと待ってカツコの中余計…別人格！？え、な…ええ!!！？」

ボク

「ああ、大丈夫ですよ!!ボクは別にキミ…というか『僕』の精神を乗っ取ったりはしないですよ」

僕

「え、あ…えー、と…ま、まあ…いいや」

ボク

「うわ順応早っ！！！！さ…流石は暗いだけありますにゃ…」

僕

「いやだから余計だつて、意味分かんないし…ひとまずは落ち着いて、冷静に現状把握をしようと思う…」

僕

「…さて、まずキミは何者？」

ボク

「ボクは『ボク』ですにゃ。キミ…『僕』の妄想から生まれた、口リプニネコミミさんですにゃ。カワイイですにゃん」

僕

「最後の一言余計な気もするけどまあいいや今は。で…キミ、いや『ボク』は何処にいるの？声だけで姿が見えない…」

ボク

「安心するですにゃ！！ボクは『僕』の脳内にいるですから、外に影響はないですにゃ」

僕

「唐突にこんなロリロリヴォイスが脳内に聞こえてきたら僕自身に影響がありそうな気がしているのは僕だけではないはずだ」

ボク

「残念ながら『僕』だけですにゃ。だって、この状況を知っているのは、ボクたちふたりだけですにゃ」

僕

「ふたり…『ボク』も一人として数えられるのか…？」

ボク

「むむう…ツツコミがスルドくなってきたですよ…。流石は暗いだけあ」

僕

「いやだから意味がわからないよ。っていうか僕は暗くなんかない…いや、暗いかもしんないけどさ…。それにしても、それとこれとにどんな関係が？」

ボク

「うーん…なんとなく？」

僕

「ヲイ」

ボク

「ウソウソ、嘘ですよ！！ホントは『暗い』『冷静』という公式からですよ」

僕

「その微妙な公式は何処から…？いや、間違いでもないとは思ってどさ」

ボク

「しかし…それにつけても落ち着きすぎですよ…もう少しあわてたりしてもよさそうなものに…」

僕

「まあ…あれだ。外界との接点が少ない分、感情が希薄なわけで」

ボク

「つまり、絵に描いたようなヒッキーですよ？」

僕

「ぬうおおおおお南無南無南無南無今すぐ消えやがれええこのクソネコがああああ」

ボク

「いやあああん！！や、やめて下さいにや！！ボ、ボク、消えちやう…お願い、ボクを消さないで…」

僕

「うわなんだお前！！急に異様にカワイくなるな！！」

ボク

「はにゃん？ボクはいつでもカワイイですよにゃ」

僕

「喋り方以外全然カワイく思えなかったよ僕」

ボク

「…っていうか、念仏程度で『僕』の妄想…つまりボクが消えなくても思ってたですよにゃ？」

僕

「ちなみに、どうすれば消えてくれる？」

ボク

「『僕』がヲタじゃなくなれば」

僕

「ああ無理。もう僕はあっちの世界には戻れない」

ボク

「じゃあ、残念ながらボクは消えませんですよ」

僕

「はあ…」

ボク

「…そんなにボクといるのがイヤですよ…？」

僕

「ど…どうしたのいきなり淋しそうに…？」

ボク

「もし…本当にイヤだっていうのなら、ボクはいなくなりますけど…」

僕

「……………」

ボク

「…イヤ…ですよ…？」

僕

「…わかったよ。僕が悪かった。うん」

ボク

「…!!じゃあ…」

僕

「まあ…す、少しだけなら…」

ボク

「…うん。わかったですよ!!『僕』は、顔は悪いけどイイ人で  
すにゃ」

僕

「あああああやっぱム力つくううう南無南無南無南無…」

ちゅん、ちゅん、ちゅん。

ある日の朝の、出来事でした。

（後書き）

読んで下さった皆様方、ありがとうございます。そして、心よりの  
お詫びを申し上げますorz

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4611a/>

---

僕とボク

2011年1月27日08時17分発行